

研究テーマ	造形的な創造活動をするための基礎的な能力を培う工夫 — 小学4年「ほってすって見つけて」の実践を通して —
-------	--

利根町立文小学校 教諭 氏名 秋本 円

I 研究テーマについて

小学校学習指導要領における教科の目標では、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基本的な能力を培い、豊かな情操を養う。」とある。また、「感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わわせる」ことは、「材料や用具に対する関心やつくりだす活動に向かう意欲などの造形への関心や意欲、態度を支えるものとなる。」とある。以前2学年を担当した際、工作の題材において、児童の用具の使い方があまり身についていないと感じた。ほとんどの児童が自分の思い(イメージ)を膨らませ、絵で表現することはできるが、はさみやカッターでイメージしたものを立体的に表現する段階で、用具を思うように扱えずに、途中で諦めてしまう児童がいた。

昨年は4学年を担当し、絵の具を使った表現方法で、モダンテクニックを指導し、自分の思いを絵に表現する学習を行った。その学習で新しい表現方法を身につけることで、絵に表すことへの関心が高まり、意欲的に取り組む児童が増えた。その後の絵を描く題材では、多くの児童が積極的にモダンテクニックを使用し、今まで表現しきれなかった自分のイメージを表現することができていた。

そこから、児童がイメージしたものを、思うように表現するためには、用具や技法の基礎的技能・知識を身につけることが必要であると考えた。そして、用具の基礎的技能を身につけることで、つくりだす喜びを味わえるようになると考え、この研究テーマを設定した。

昨年度までの本校の研究の課題として、「今後は2年間を見通して他の用具に関しても、他学年との連携を図りながら、児童に造形的な創造活動の基礎的な能力を身につけさせていきたい。」としたことから、今回の研究では小学校段階で扱う用具の中から、特に中学年で扱う彫刻刀の基本的な技能・知識を身につけさせることで、つくりだす喜びを味わわせたいと考えた。

II 研究の実際

1 題材名

「ほってすって見つけて」

2 題材の目標

感じたことや想像したことなどを木版画に表すために、彫刻刀の扱いに慣れ、木版画の特徴を理解し工夫して表す。

3 題材について

(1) 児童の実態 (32名)

本学級の児童の多くは、図画工作に意欲的に取り組むことができる。第4学年から新しく彫刻刀を扱うということもあり、児童のほとんどが彫刻刀を扱うのが初めてである。

<実態調査>

(調査人数32人)

質問内容	調査結果		
1 今までに彫刻刀を扱ったことがある。	2人		
2 消しゴムはんこで扱った彫刻刀の種類	丸刀と三角刀	丸刀のみ	三角刀のみ
	25人	3人	4人

アンケート調査を行った結果、本題材以前に彫刻刀を扱ったことのある児童は2名であった。

その2名のうち1名は、家にあった彫刻刀の使い方を知らないまま扱ったため、手を切ってしまった経験があり、彫刻刀への恐怖感があった。他の児童も、今まではさみやカッターしか扱ったことがなく、彫刻刀は見るのも始めてという児童もいて、「どのように扱ったらいいのかわからない。」「ちょっと怖い。」という声が多く聞かれた。

また、木版画の導入として、消しゴムで自分オリジナルのはんこを作成した。その際丸刀と三角刀だけを使用した児童が25人、丸刀だけを扱った児童は3人、三角刀だけを扱った児童は4人であった。消しゴムはんこを作成する際には、彫刻刀の安全な扱い方のみ指導した。そのため、切り出しや平刀がどのような彫り跡になるかがわからず、扱う児童がいなかった。

(2) 題材観

本題材は、感じたことや想像したことを木版画に表すために、彫刻刀の扱いに慣れ、木版画の技法の特徴を知り、試しながら多様で意外性のある表現に興味と喜びを感じることができる。これまではさみやカッター、のこぎりなどの刃物について扱ってきたが、彫刻刀は初めて扱う刃物であるため、その特性と扱い方をしっかりと身につけ、新たな表現方法を知ること、自分の想いを自由に表現することができるようになる題材だと考えた。

(3) 指導観

学習指導要領(3)材料や用具に関する事項では、「イ 第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いることとし、児童がこれらを適切に扱うことができるようにすること。(略)「はさみ、のり」は切断や接着する用具として示してある。「簡単な小刀類」は、厚紙などを切るための扱いやすいカッターナイフや、木の枝などを少しずつ削ったりできるような児童の手に合った安全な小刀などのことである。」とある。初めて彫刻刀を扱う児童が多い本学級では、彫刻刀の安全で正しい使い方を身につけることで、自分の思いを表現していくことの楽しさを味わわせたい。そこで、本題材に入る前に、彫刻刀の安全で正しい使い方を指導する。また、日ごろから連絡帳のサインに自作の消しゴムはんこを使用していたため、消しゴムはんこにはとても興味を持っていた。そこで、導入で消しゴムはんこの作成を通して、版を作ることへの興味関心を高め、彫刻刀の種類と彫り跡の違いに気づき、自分のイメージを膨らませ、表現の幅を広げられるようにしたい。

4学年の理科では、生き物についての観察を多く行った。そして、本校がある利根町はとても緑豊かで、いろいろな生き物が身の回りに生息している。そこで、彫刻刀それぞれの特徴を活かせ、児童の関心の高い「生き物」をテーマに版を完成させることを目標に取り組む。また、事故防止のために、安全な扱い方について指導することが重要である。その際、教師の一方的な説明で終わるのではなく、実際に取り扱うなどして、児童が実感的に理解できるようにしていきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
彫刻刀を使う活動を楽しみながら、木版画に表すことに取り組みもうとしている。	日頃の生活で印象に残ったことや、想像したことを基に、版に表したいことを考えている。	彫る部分を考え、彫刻刀の特性を生かして版を作るなど、表し方を工夫している。	友人と創作過程での気づきを話したり、できた作品を見せ合ったり、話し合ったりしながら、表現のよさや工夫を感じ取っている。

5 指導と評価の計画(8時間扱い)

○印は時数

時間	学習活動・内容	評価規準・【評価方法】
事前 学習	・消しゴムはんこから、版に表すことを知る。 ・彫刻刀に触れる。	・彫刻刀を使う活動を楽しみながら活動している。 関【行動・作品】
第1次 ②	・彫刻刀で板を彫って版に表すことができることを知る。 ・彫刻刀の種類とその種類ごとに彫り跡の違いや扱い方を知る。	・刃の形による彫り跡の違い，刷った感じの違いやおもしろさを感じることができる。 関【行動】 ・正しく安全な彫刻刀の使い方に興味をもって活動している。 創【行動・作品】
第2次 ⑤	・版に表したいことを考える。 ・下絵を描いて彫る部分を決める。	・生活の中や，想像の生き物などを描くことができる。 想【行動・表現】 ・白と黒のバランスや彫り方を考えて描くことができる。 想【行動・作品】
	・彫る部分を考え彫刻刀の特徴をいかして版を彫る。 ・インクの量や，ローラーの使い方を考えて刷る。	・彫刻刀の特徴を考えて，効果的な彫り方を考えている。 想【行動・作品】 ・彫る部分を考え，彫刻刀の特性を生かして版を彫など，工夫している。 創【行動・作品】
	・刷った紙の裏側から絵の具で色を塗る。	・色のバランスを考え，彫った部分に絵の具で色を付けることができる。 創【表現・作品】
第3次 ①	・友達や自分の発想の違いや表し方の特徴に気づく。	・彫りや刷りの感じのおもしろさ，友達と自分の表し方の違いやよさに気づいている。 鑑【発話・ワークシート】

6 指導の実際

(1) 彫刻刀の安全な操作技能を高める指導

① 消しゴムはんこでの導入

初めて彫刻刀に触れるという児童が多く，2学年で学習したはさみやカッターとは違い，切るのではなく彫るという作業に抵抗感を持っていた。そこで，彫刻刀の扱いに慣れるため，板材よりやわらかい材料として，消しゴムで練習することとした。また，日ごろから連絡帳のサイン用として自作の消しゴムはんこ（写真1）を使用していることから，児童は高い興味・関心をもって取り組むことができた。

学習活動・内容	児童の反応
---------	-------

・消しゴムはんこから、版の仕組みを知る。(写真1) ・一人5cm×6cmの消しゴムはんこ用消しゴムで彫刻刀に触れる。(写真2) ・安全な持ち方、手の置き方を確認する。 ・印を押すことで、彫ったものが反転して写ることを知る。(写真3)	写真 写真2 導入時に作成した消しゴムはんこ 写真3 導入時に作成した 白くなっているところがある。色がついていないところがある。 簡単に彫れた！でも丸く彫るのが難しい！ 文字が反対に写ってるね。
---	--

② 板材による彫刻刀で彫る練習

導入として、消しゴムはんこを作ることで、版画に対する関心を高めた後、更なる技能と知識を身につけるため、彫刻刀の種類と彫り跡の違いについて、板材での練習を行う。

学習活動・内容	提示資料と児童の反応
・映像資料など資料を提示し、正しい持ち方、板の置き方について改めて詳しく確認する。(資料1) ・彫った跡を印刷したものを提示し、彫刻刀の種類によって、彫り跡が違ふことを知る。(資料2) ・10cm×10cmの版画で使用するものと同じ板材を用意する。(写真4)	資料1 彫刻刀の種類と名前 写真4 板材での練習 資料2 彫刻刀の種類と彫り跡 (左上三角刀、左下平刀、右上切出刀、右下丸) 平刀ってこんな感じに彫れるんだ。消しゴムのときより硬くて難しい。丸はやっぱり難しいね。

③ 版の刷り方と、できた版画から出来上がりをイメージ

実際に、自分たちが彫った板にインクをつけ、版にすることで、彫り跡がどのように紙に表現されるのかを知る。彫り跡からできる表現に関心を高め、理解を深められるようにする。

学習活動・内容	提示資料と児童の反応
・板にインクをつけ、紙に写し、彫るときの角度や力の強弱によって、紙にどのように表れるかを知る。(写真5) ・写した紙を確認し、インクのつけ方でも作品の印象が変わる事を知る。	写真5 インクをつけた試し板 あれ？切り出しで彫った茎や平刀で彫ったところが、全然わからなくなっちゃった。

- ・彫り方について理解したうえで自分が版画で描く生き物を決める。(図鑑などをよく見る)
- ・ワークシートにどの部分を何刀で彫るのか、太い線にしたいのか、細い線にしたいのか、彫る部分、彫らない部分などを決める。(写真6)
- ・彫り跡をイメージして、ワークシートをもとに下絵を板に描く。(写真7)
- ・ワークシートをもとに、それぞれの部分で、彫刻刀を使いわけ、彫っていく。(写真8)

羽はふわふわしているから、丸刀を使おうかな？
それとも細かいから、三角刀を使おうかな？



写真7 板に描いた下絵

羽の部分は彫りたいから背景はあまり彫らずに、黒くしようかな。雲は平刀で彫ってみよう！

ペンギンの白い毛の
ところを三角刀で細かく彫ったら、本物の毛みたいになったよ！



写真8 三角刀で白い毛を表現

④ 紙に刷り、仕上げる

版にインクを付け、紙に刷る。2枚の紙を使い、彫り跡の確認をする。

- ・版にインクを付け、ばれんで紙に刷る。(写真9)
- ・試し刷り(写真5)したときのことを思い出し、隅々までよくこすり、紙に写す。
- ・刷った紙を見て、彫り残しや手直しが必要な部分があるかを確認し、手直し後2枚目を刷る。
- ・写した紙の裏から絵の具を使って色を塗る。(写真10)
- ・完成した版画を鑑賞する。
使った彫刻刀と、彫り跡に注目し、友達作品から感じたことを発表しあう。(付箋を使って、作品に付けていく)
- ・活動を振り返る。
友だちの作品を鑑賞した上で自分の活動を振り返る。

(写真11, 12)



写真9 ばれんを使って紙に刷る

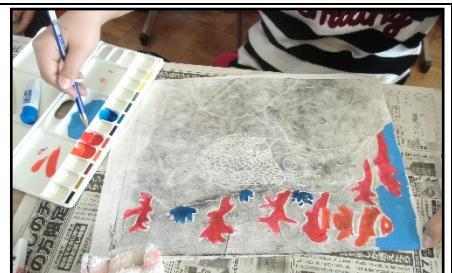


写真10 絵の具で色をつける



写真11 完成した版画作品

丸刀で彫ったところは、力強い感じがする。平刀で彫った雲が本物の雲みたいだね。羽根の線の太さが違っていいね。

ペンギンのおなかの部分の細かい毛が本物みたいだね。海や山は平刀で彫ってあるね。風を三角刀で彫ったから冷たい感じがするね。



写真12 完成した版画作品

Ⅱ 研究の成果と課題

1 成果

＜事後アンケート＞

(調査人数 32 人)

質問内容	結 果	
1 作品を仕上げるために、どの彫刻刀を使ったか。	全ての種類	26 人
	丸刀と三角刀と（平刀か切出刀）	4 人
	丸刀と三角刀	2 人
	丸刀のみ	0 人
	三角刀のみ	0 人
2 自分の思った通りの作品になったか。	とてもよくできた	21 人
	だいたいできた	8 人
	あまりできなかった	3 人
	まったくできなかった	0 人
3 「よくできた」または「できなかった」のはどのようなところか。	よくできた	・太い線（丸刀）と細い線（三角刀や切出刀）を使い分けたから、本物の羽（毛）のように彫れた。 ・周りの物（草、木、雲など）と生き物で彫刻刀を使い分けて彫ることができた。など
	できなかった	・もっと深く彫った方が、線がはっきり出た。 ・インクが少し足りなかったから、うまく写らなかった。など

本題材の導入で消しゴムはんこを扱うことにより、児童の興味・関心をより高めること、版画は反転して紙に写るということを理解することができた。また、板材で実際に彫る練習や彫り跡の確認をするなど、本番の版画に入る前に十分に彫刻刀で彫る体験をさせたことにより、版画に対する抵抗感を取り除くことができた。事後アンケート結果からも、自分の想像したものを思うように版画作品に表すことができた児童約 9 割であった。鑑賞会でも、「思った以上に上手にできた。」「練習板のときより上手にできた。」などの声もあり、消しゴムはんこや練習用板材での失敗をもとに、自信をもって版画に取り組むことができていたことがわかる。

この結果から、彫刻刀の扱い方や彫刻刀の知識を十分に理解させ、練習することで児童の達成感や満足感を実感させることができた。そして、導入を工夫し、児童の困り感を取り除く活動を取り入れることで、最後まで高い興味・関心を持ちながら題材に取り組めることがわかった。

2 課題

消しゴムはんこや練習用の板材を扱うことで、予定より多くの時間で扱うことになった。短い時間でこのような取り組みができるよう、更なる教材研究が必要である。

また、事後アンケートの中で、「自分の思った通りの作品にあまりできなかった」と答えた児童が 3 名いた。いずれの児童も、1 回目の紙に刷る作業から、手直しの時間が取れず、手直ししたい部分がそのままになってしまったとの理由であった。そこで、今回は導入部分に多くの時間を使ったが、今後は手直しの部分にも十分時間を取ることで、更なる満足感や達成感を味わわせることができたと考える。

参考資料

- ・小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成 20 年 8 月）
- ・図画工作教科書（日本文教出版）、DVD 教材（日本文教出版）